

YMCA NEWS 金沢青年

No.34(2023年9月号)

発行所:金沢キリスト教青年会 〒920-0998 金沢市里見町 44-1 里見町タウンハイツ 201
<http://sophiruka.sakura.ne.jp/kanazawaymca/index.html>

金沢 YMCA 主催 “平和の集い 2023” を開催 核兵器のない平和な世界を目指して — 平和な文化をつくるために —

金沢 YMCA 主催“平和の集い 2023”(北陸学院、金沢ワイズメンズクラブ、北國新聞社後援)は、2023年9月3日(日)14:00~16:00、金沢独立キリスト教会にてスティーブン・ロイド・リーパー氏(公益財団法人 広島平和文化センター 元理事長)の講演「核兵器のない平和な世界を目指して—平和な文化をつくるために—」を中心に開催されました。多くの方々のご尽力により102名の参加者が集い、とても意義深い催しになりました。住み慣れた日本を離れ、USA にご帰国なさる目前というお忙しいなか、講演を引き受けてくださったリーパー氏をはじめ、ご協力くださった皆様に厚く御礼申し上げます。(編集子)

【プログラム】

14:00	開会挨拶 講師紹介	金沢 YMCA 理事長 朝倉 秀之 金沢 YMCA 評議員 藤井 辰男
14:10	講演	広島平和文化センター元理事長 スティーブン ロイド リーパー 氏
15:30	閉会挨拶 みんなで歌おう “青い空は” 指導 ピアノ	金沢 YMCA 常務理事 山内 ミハル 金沢 YMCA 評議員 藤井 辰男 金沢教会オルガニスト 南谷 弓枝
16:00	閉会	



《講演要旨》

戦争文化と平和文化の溝

広島平和文化センター 元理事長 スティーブン・ロイド・リーパー



(写真提供 竹中文晴 理事)

私たちは、一部の人々を大金持ちにし、大多数の人々を不幸にし、自然界を破壊する経済的、政治的、社会的システムに生きている。現在のシステムを表す適切な言葉は“戦争文化”である。このシステムは競争を崇拝している。自由で公正な競争こそが不正に対する答えだと信じている。争いは勝つか負けるかだと信じている。私たちは皆、個人の強さと努力によって栄枯盛衰が決まると信じている。善良な人々や国家が邪悪な敵対者を打ち負かすためには、しばしば暴力が必要だと信じている。この一連の信念は、人類を絶滅へと導いている。戦争文化がこのまま支配し続けるならば、唯一の問題は、核兵器ですぐに自滅するのか。それとも、地球を居住不能にすることでゆ

つくりと自滅していくのか。

生き残るためには、人類は平和文化へと卒業しなければならぬ。平和の文化は競争よりも協調を優先する。紛争が発生した場合、ゴールは弱者、高齢者、胎児、そして地球そのものを含むすべての関係者が満足し、利益を得る解決策である。平和文化は王や CEO を崇拜しない。意思決定は、対話、議論、交渉、そして関連するすべての要素を理解するための誠意ある努力を通じて、集団的に行われる。紛争状況においては、すべての当事者を満足させようとする努力は、本質的に暴力を排除する。暴力は失敗である。暴力は自制心の欠如である。暴力は利己主義であり、不注意であり、軽率である。実際、誰かが他の人の意思に反して何かを取るなら、それは暴力の始まりである。

暴力の否定は平和の文化への鍵である。それはまた、人類が迫られる最も困難な変化でもある。私たちは皆、DNA に暴力を受け継いでいる。誰かに殴られれば、殴り返すようにできている。悪を見れば、どんな手段を使ってもそれを破壊したいと強く願う。しかし、暴力は悪が入り込み、世界を支配する扉である。暴力は、少数が多数を支配する唯一の方法なのだ。暴力は、戦争文化があらゆる平和文化を打ちのめすために使う道具である。暴力が世界をより良い場所にしたことは一度もない。ある一時期、ある集団にとっては状況が良くなったかもしれないが、全体としては、暴力は失敗である。暴力によって悪を打ち負かそうと奮闘してきた何千年もの間、私たちの世界は、地球上の複雑な生命体すべてを破壊しかねないボタンに指をかけた、冷酷で無法なギャングたちによって支配

されている。そして、私たちがこのような競争力のあるギャングに支配されているという事実が、私たちの多くの緊急かつ実存的な問題を解決から遠ざけているのだ。

主イエス・キリストは悪と死に打ち勝つ方法を教えるために地上に来られた。その方法を言葉で教えてください。そして、その方法を模範として示された。イエスが私たちを救うために死なれたのは事実だが、私たちがすべきことはイエスを信じることだけだというのは真実ではない。イエスは私たちに戒めを与えられた。イエスが私たちを愛してくださいましたように、互いに愛し合いなさいと。敵をも愛しなさいと。私たちに迫害する者のために祈りなさいと。その誕生によって、私たちは競争してはならないことを示された。他人と比較して自分の地位を考える必要はない。私たちが考えるべきことは、神との関係、つまり、神の国を地上に、そして私たちの人生にもたらすことができるかどうかに向けられるべきである。彼はその死によって、平和と愛が正義よりも重要であることを私たちに示した。彼は無実であり、拷問され、殺害されたにもかかわらず、彼も天の全能の父も悪人を罰しなかった。彼らは正義を追求しなかった。彼らはイエスの死を用いて、1) 肉体の死後にも命があること、2) 重要なのは神との関係であって、地上で何が起こるかではないことを示したのだ。イエスは私たちに平和文化を教えるために来られた。私たちはあまりにも長い間、イエスを無視し、誤った解釈をしてきた。今こそ卒業の時であり、私たちは皆、自分自身のために、一人一人がそうしなければならぬのだ。

The War Culture Peace Culture Divide

Former President, Hiroshima Peace Culture Foundation
Steven Lloyd Leeper

We live in an economic, political and social system that makes a few people very rich, makes the vast majority of people miserable, and destroys the natural world. The proper term for the current system is “war culture.” This system worships competition. It believes that free and fair competition is the answer to injustice. It believes that conflict is to be won or lost. It believes that we all rise or fall as we should according to personal strength and hard work. It believes that violence is often necessary for good people and nations to defeat their evil opponents. This set of beliefs is leading humanity toward extinction. If the war culture continues to dominate, the only question is, will we kill ourselves quickly with nuclear weapons? Or will we kill ourselves slowly by making our planet uninhabitable?

To survive, humanity must graduate to a culture of peace. Peace culture prioritizes cooperation over competition because the goal is universal health and wellbeing. When conflict arises, the goal is a solution that satisfies and benefits all parties, including the weak, the elderly, the unborn, and the Earth itself. Peace culture does not worship kings or CEOs. Decisions are made collectively through dialogue, discussion, negotiation, and good-faith efforts to understand all relevant factors. In conflict situations, the effort to satisfy all parties inherently rules out violence. Violence is failure. Violence is a lack of self-control. Violence is selfishness, carelessness, thoughtlessness. In fact, if anyone takes something against the will of another, that is the start of violence.

The rejection of violence is the key to a culture of peace. It is also the most difficult change humanity will be forced to make. We all have violence in our DNA. If someone hits us, we are hardwired to hit back. If we see evil, we desire intensely to destroy it, by any means necessary. But violence is the door through which evil enters and dominates the world. Violence is the only way the few can dominate the many. Violence is the tool the war culture uses to pound down any peace culture. Violence has never, ever made the world a better place. It may have made circumstances better for one group of people for one period of time, but overall, violence is a failure. After many millennia of struggling to defeat evil through violence, our world is ruled by heartless, lawless gangsters with their fingers on buttons that could destroy all complex life on Earth. And the fact that we are ruled by these competitive gangsters is what keeps us from solving our many urgent, existential problems.

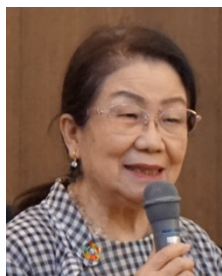
The Lord Jesus Christ came to Earth to teach us how to conquer evil and death. He told us how to do so in words. He showed us how to do so by example. It is true that Jesus died to save us; it is not true that all we have to do is believe in him. He gave us a commandment. He told us to love one another as he loved us. We are to love even our enemies. We are to pray for those who persecute us. By his birth, he showed us that we are not to compete. We need not give any thought to our status in comparison to others. Our thought should be directed at our relationship to God, the extent to which we are able to bring the Kingdom of God to Earth and into our lives. By his death he showed us that peace and love are more important than justice. He was innocent, tortured and murdered, and yet, neither he nor his omnipotent Father in Heaven punished the evildoers. They did not pursue justice. They used Jesus' death to show that 1) there is life after physical death and 2) it is our relationship to God that counts, not what happens on Earth. Jesus came to teach us peace culture. We have ignored and misinterpreted him for far, far too long. It is time to graduate, and we all have to do it on our own, for ourselves, one by one.

“平和の集い 2023”を企画・実施して

「平和の集い 2023」を終えて

実行委員長 山内 ミハル

4月、藤井評議員から、金沢でスティーブ・リーパー氏を招いて、「核廃絶、平和運動」についての講演会を開催してはどうかとの提案があり、同月の理事会で実施を決め、「秋ごろ気候のいい時に」と考えていました。ところが後日、スティーブ・リーパー氏が9月にアメリカに帰国という話を耳



にし、ぜひ帰国される前にとお願いしたところ、9月3日しか空いていないことがわかりました。

早速、会場選び、後援依頼、チラシ作成にと忙しくなりました。会場は金沢独立キリスト教会の岡田牧師が快く引き受けて下さり、後援は北陸学院と北國新聞社にお願いしました。大急ぎでチラシ5000部を作成し、すでに夏休みに入っていた大学(金沢近辺の13大学)、各教会、電話相談の組織、老人クラブ、町内会、レストラン、美容院などにチラシを配布しました。残念だったのは、公の機関の後援をとってなかったので、市内の4図書館ではチラシ配布の協力を得られませんでした。

8月半ばを過ぎても参加申込は金沢YMCA・金沢ワイズメンズクラブのメンバーを入れても30名程度しかなく、とても心配しましたが、9月3日開催当日、

13:30 過ぎから参加者が続々と来はじめ、開演時間には100名を超え、ホッと胸をなでおろしました。

参加者から、「いいお話だった」、「考えさせられた」、「これからもっと平和について関心を持ちたい」などの感想が寄せられました。後日、講演者リーパー氏からは、「また、金沢に来たい」との申し出を受けました。人口45万人の小都市・金沢では、この種の講演会の集客は難しいのですが、100名を超える人々が参加して下さったことに感謝してご報告いたします。

イエスが歩まれた「平和への道」

実行委員 藤井 辰男

スティーブ・リーパーさんを講師にお招きし、金沢YMCA主催「平和の集い2023」を、実りをもって終えることができましたこと深く感謝いたします。



スティーブさんと私の初めての出会いは、YMCA協力主事としてアメリカYMCAより日本YMCAに派遣され、青函連絡船「洞爺丸事故」

で召天されたお父さまの「ディーン・リーパー召天50周年記念」の時でした。2004年にスティーブさんは「YMCAピースキャラバン」の団長として、パレスチナ、インド、スリランカ、イスラエル、アメリカの5人の青年

と車で3か月間、「平和」と「いのちの大切さ」を訴えて全国を回られました。

ステイーブンさんは2007年～2013年広島平和文化センターの理事長を務められ、2014年には平和教育団体として「平和文化村」を開設されました。長年にわたり広島から世界に向けて核兵器の廃絶を訴え、平和運動に取り組んでおられます。

ステイーブンさんの語られた「イエスは私たちに平和文化を教えるために来られた」「正義より愛と平和が大切である」の言葉がとても印象に残っています。「実に、キリストはわたしたちの平和であります」と聖書に語られています。また「私たちは、アジア・太平洋地域の人びとへの歴史的責任を認識しつつ、世界の人

びとと共に平和の実現に努めます」と、日本YMCA基本原則に掲げています。YMCAの使命はキリストの愛と平和を求め、「世界の平和構築」に向けて積極的に運動を展開していくことなのです。

今も戦争や紛争が絶えない中、世界の平和と人類の生存は地球規模で解決が迫られている重要課題です。金沢YMCAはこれからも未来に向けて、共に生きる平和な世界や豊かな地域社会の実現をめざし、イエスが歩まれた「平和への道」を共に歩みたく思います。「平和と愛と友情のいのちの輝きをこの堅い握手と歌声に込めて」と、最後に平和の歌「青い空は」を参加者全員で合唱し、平和への思い(誓い)を新たにすることができました。

《インフォメーション》

【2023年度プログラミング講座(スクラッチ)】

スクラッチ(Scratch)とは、Scratch財団がマサチューセッツ工科大学メディアラボ ライフロング キンダーガーデングループ(MIT Media Lab Lifelong Kindergarten Group)と共同開発する8～16歳のユーザーを主対象とした無料教育プログラミング言語およびその開発環境ないしコミュニティサイトである。

北陸学院小学校内教室で実施。

◇第3回 日時:7月15日(土)13:00～14:50、対象:小学校1～3年生、内容:拡張機能の表示(クリックの場所、ペン機能で図形を動かす・音楽・音声合成など)。

◇第4回 日時:7月15日(土)10:50～16:00、対象:小学校4年生、内容:拡張機能の表示(クリックの場所、ペン機能で図形を動かす、音楽・音声合成)、ゲーム作成(自動車運転者ゲーム、コースの作成、センサーをつけた車作成、コースを自動で一周する)。

【2023年度ドローン操縦講座】

アンケートで最も希望が多かったのがドローン操縦教室。危険を伴うので少人数で行う。1グループ5名以内で1名ずつ指導し、4グループに分かれる。

北陸学院小学校内体育館、天気が良ければ北陸学院大学グラウンドで実施。

安全を守るための注意を学ぶ。ドローンのしくみ、風のうごき、ドローン操作、コントローラー(日本モードと海外モード)、「ドローンをとばしてみよう」など。

◇第1回 日時:8月12日(土)13:00～14:30、対象:小学校1～2年生。◇第2回 日時:8月12日(土)14:45～16:15、対象:小学校2～3年生。◇第3回 日時:10月7日(土)13:00～14:30、対象:小学校2～5年生。◇第4回 日時:10月7日(土)14:45～16:15、対象:小学校3年生。

【2023年度テニス教室】

対象:小学校4年生、場所:北陸学院大学テニスコート、内容:テニスの基礎(ラケットの握り方、ボールの打ち方、コートの使い方、ブラシのかけ方)。

◇第1回 8月12日(土)14:45～16:00 ◇第2回 8月19日(土)14:45～16:00 ◇第3回 9月2日

(土)13:00～14:15 ◇第4回 9月2日(土)14:30～15:30

【金沢YMCAの会員・会費・寄付】

会員:本会の目的に賛同する人は誰でも入会資格があります。必要事項を記入した入会申込書(または①～⑥を記入した手紙やEメール)を金沢YMCA事務所または理事長宛に送付し、会費を納入していただければ、会員になることができます。①氏名、②生年月日、③住所、④電話番号(できれば携帯)、⑤できればEメールアドレス、⑥職業または学校名。

会費:維持会員は年会費12,000円、通常会員は年会費6,000円、学生会員は年会費2,000円、少年会員(18歳未満)は年会費1,000円です。

会費納入方法:下記のいずれかの方法で。

- ・郵便振替 加入者名:金沢YMCA
口座番号:00790-8-56852
 - ・銀行の指定口座に振り込む
北國銀行 香林坊支店 104 普通預金
口座番号:428491
口座名義:一般財団法人金沢基督教青年会
理事長 朝倉秀之
 - ・現金で支払う
- 寄付:**会費と同様の方法でお寄せください。

★編集後記★ 時宜を得た講演会の記事を中心に編集しました。次号も続編の内容にする予定です。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



YMCA NEWS 金沢青年 No.34

編集委員:朝倉秀之・山内ミハル
平口哲夫(編集長) sophiruka@yahoo.co.jp
発行者・発行日:金沢YMCA・2023年9月30日
発行所:金沢YMCA事務所
〒920-0998 金沢市里見町44-1-201
理事長:朝倉秀之 asahide0927@gmail.com
TEL:076-273-3108

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆